

# 学芸員とめぐる戦争のつめ痕—名古屋城界限—を開催しました。



案内人の伊藤厚史学芸員

令和6年11月23日(土)大人気のウォーキングイベント「学芸員とめぐる戦争のつめ痕」が開催！今回で8回目となりました。

さわやかな秋晴れのもと、愛知・名古屋 戦争に関する資料館の企画展示「空襲と企業 -愛知・名古屋の工場防空政策-」を見学した後、資料館から名古屋城周辺に残る戦争遺跡を案内人の説明とともにめぐりました。

参加者からは、「とてもおもしろかったです。」「初めていく場所に行き、詳しい話を聞いて良かった。」「また参加したいです。」などといったお声をいただき、主催者一同、嬉しく思っております。今回のイベントが、身近にある戦争のつめ痕に気づくなど、違った視点で街歩きをするきっかけになれば幸いです。

## <ツアーの様子>



少し風はありましたが天気も良く秋晴れです。



「軍馬軍犬軍鳩碑」

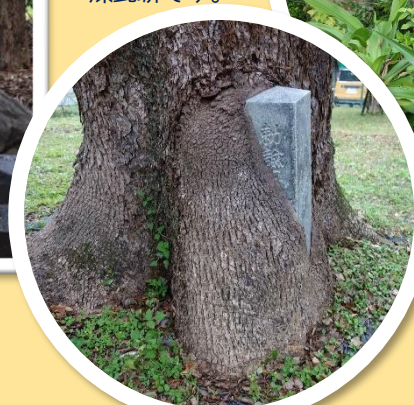
この碑は、第三師団に使役された馬、犬、鳩が浮き彫りされています。昭和14年4月7日(愛馬の日)に建立されました。



「西南之役碑」三基

西南戦争で戦った名古屋鎮台歩兵第六聯隊出身者の顕彰の碑です。

名古屋鎮台が改編されて第三師団になりました。その司令部があった場所の煉瓦塀です。



「勅諭下賜〇〇」碑  
年月とともに木に飲み込まれようとしています。



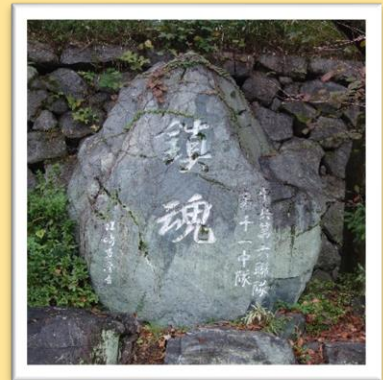
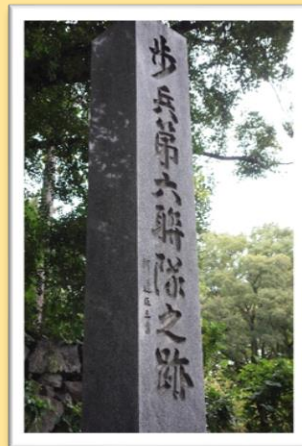


「陸軍宮内神社跡」  
第三師団司令部内の神社跡。  
今では、大きな木に囲まれています。



「境界標日本政府」

日本語は道路に面して、英語は敷地に面して、同一の内容が書かれています。詳しい資料は残っていませんが、英語表記があることから、戦後の進駐軍に対するものと推察されます。



元歩兵第六聯隊第十一中隊の方々が、  
平和の願いを込めて、鎮魂碑を建立されました。



「忠霊」碑は、歩兵第六聯隊創立以来の戦没者の慰霊碑としてかつて栄螺山の頂にありましたが、移築され、今は二の丸にあります。



切れ込みは、戦時中に松脂を取った跡です。松脂は物資欠乏の折、代用燃料として期待されて採取されており、名古屋市役所周辺の松のいくつかにも採取の痕跡が見られます。



<今回歩いたルート>



愛知・名古屋 戦争に関する資料館は、年間を通してこの地域の戦争のことを学べる展示を行っています。現在は、企画展示「空襲と企業 -愛知・名古屋の工場防空政策-」を開催しています。（令和7年3月9日まで）

名古屋城周辺の戦争遺跡などをめぐりながら、どうぞ当資料館にお立ち寄りください。



当資料館のアドバイザー伊藤厚史先生が監修した「ガイドマップ 愛知・名古屋 戦争のつめあと散歩」を当資料館で配布しています。当資料館のホームページからもダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

ダウンロードは[こちら](#)から。

名古屋城に行く際、マップの1枚としてどうぞ！



愛知・名古屋  
戦争に関する資料館